

学校教育自己診断アンケート結果について

2019/02/25

摂津市立鳥飼東小学校
校長 森田 優人

平素より本校の教育活動についてご理解とご支援を頂きありがとうございます。また、昨年末にお願いした「学校教育自己診断アンケート」に9割以上の回答を頂きましたこと、ここであらためて感謝申し上げます。以下、大まかではありますが、その結果についてお知らせいたします。皆様より頂いたご意見を今後の教育活動に反映させるべく職員一丸となって取り組みを進めてまいりたいと思います。皆様の一層のご理解とご支援を、よろしく願いいたします。

《保護者アンケート》有効回答率：90% (203/225 通)

【情報発信について】

情報の発信・収集ともに課題が見られる

【学習について】

おおむね例年通りの結果だが、評価について課題が見られた

【学校生活について】

楽しく安心した生活の保障という面で課題が見られた

【その他】

遠足の行き先について、課題が見られた

《児童アンケート》有効回答率：ほぼ100%

【学校生活について】

高学年（3～6年）

例年通りか、それ以上であり、満足感が伺える

低学年（1・2年）

肯定的回答が減少し、課題が見られた

【授業について】

高学年

分かりやすい、実験・観察・見学が多いなど、満足している
質問や発表など、積極参加の面で課題が見られる

低学年

分かりやすさ・楽しさに課題が見られる
発表することに課題が見られる

【先生との関わりについて】

高学年

頑張りを認めてくれていると感じている
困った時に相談に応じる体制に課題がある

低学年

褒められたり、話を聞いてくれる点で満足感がやや少ない

《分析》

子ども達が日々安心して楽しく学校に通うことができるようするためには、まずは担任がその学級経営をしっかりと行うことが重要である。しかし、アンケート結果では、その面で児童・保護者ともに十分満足しているとは言えない状況である。職員間の授業相互参観や研修の充実など、指導力向上の取組の充実が必要不可欠である。加えて、児童が困った時に相談できる学校体制の充実もまた喫緊の課題である。次年度と言わず、すぐにでも検討すべきである。

授業の分かりやすさという面では例年通りの結果が得られたが、今後さらに工夫が必要である。とりわけ、単に真面目に授業を聞くだけでなく、質問や発表をしていくなど、児童が積極的に授業に参加する場面を多くつくる事が重要課題としてあげられる。新学習指導要領で求められている『主体的・対話的で深い学び』の実現に向け、職員が一丸となって取り組みを進めたい。

保護者の学校教育活動への理解を進めるための工夫は十分とは言えない状況である。学校便りやHPによる情報発信はもとより、各種PTA行事や参観懇談から日常の家庭との連絡交換に至るまで、相互理解を深めるために、まずは職員全体の意識向上が必要である。

※平成27年度～29年度の3年間のアンケート結果の平均と、今年度の結果を比較して分析しています。（肯定的回答の割合を比較しました）